

米倉教公の週間為替市場見通し

2/15 日週号

『春節明けの中国動向に注目！』

ドル/円予想レンジ 111.00 - 115.30 円

■前週の市場動向

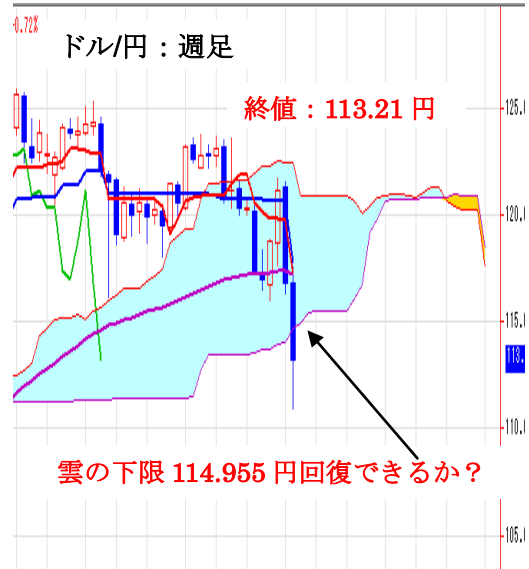
前週のドル/円は値動きの荒い展開となった。週初は、日経平均が下落して始まったものの、上昇に転じたことで前週高値 117.52 円まで上昇したが、欧米株価が大幅下落となり米長期金利が低下したことで一転ドル売りが強まった。1月20日安値の 115.96 円を下抜けて 115.16 円まで下げ足を早めた。10日のイエレン米FRB議長の議会証言内容からFRBによる早期利上げ期待が後退したことで、米長期金利低下とともに 113.12 円まで売られた。11日は日本市場が休場だったことで、参加者が薄いなかで仕掛け的なドル売りが持ち込まれ 110.96 円を示現したものの、日銀による為替介入の警戒感が高まり、まとまったドル買いが持ち込まれ 113 円台まで回復した。その後は 112 円台を挟んだ神経質な値動きとなった。しかし、NYの講演で中曽日銀副総裁が、『必要とあらば量的・質的緩和で一段の高度をとる方針』を示したため、円売りに拍車がかかり 113.20 円台まで回復した。

■今週の注目点：春節明けの中国市場動向が焦点に

今週は春節（旧正月）明けから再開される中国の株式市場や人民元の動向となる。FRBによる早期利上げが遅延するとの見方が高まっていることは、中国株や人民元の安定材料となりやすい。ただ、連休明けから中国市場が荒れる展開となると、再びリスク回避の円高圧力が高まる。しかし、前週麻生金融相が足もとの急速な円高に対してけん制した。また、日銀のレートチェックや、週末黒田日総裁や浅川財務官が首相官邸を訪問するなど、円売り市場介入に対する警戒感が一段と高まっている。政府日銀要人らからも、次々に円高けん制発言が出ている。そのため、投機筋によるドル/円の下攻めはしにくくなったことは確かだ。日米金利差が、2月1日の 1.893% から 12日 1.658% まで縮小していることも円高の要因となっている。

■テクニカル的な見解

2月9日付のシカゴ IMM 投機筋の対米ドルの差し引き持ち高で、円は前週の +37,245 から +43,232 へと円の買い持ちが増加した。その後も円高の進行で円ロングのポジションを膨らませた可能性が高い。一目均衡表の週足では、雲の下限の 114.685 円を下抜けしたことで、ドルの下落基調は継続している。そのため、今週の雲の下限 114.955 円を回復する上昇がないと上値の重い展開が継続する。26 期間先の先行スパン 1・2 が真下を向いていることで、下落基調が強まっていることにも注意が必要。ただ、日足では大幅な下落後に長い下ヒゲロウソク足が 2 本続いたことと、1 本目の安値を下回らずに陽線となり下値を固める動きとなった。そのため、下値の目途は 12 日の安値 111.63 円や 11 日の安値 110.96 円となる。戻りは週足雲の下限 114.955 円、10 日高値の 115.26 円が目途となる。黒田レンジの下限 115.00 円では上値の重い展開となる可能性もある。



★先週の気になる出来事

日銀のレートチェックとは、市場動向などの通常のヒアリングではなく、為替介入を前提としたレート提示を求めるもの。提示されたレートを受けて、当局が『マイン（ドル買い）』と返答すれば取引が成立して為替介入が行われ、『ナッシング』と返答すれば取引は成立しない。介入も辞さない姿勢にある当局の意志を市場に暗黙に伝えることが目的。当局の下限レベルを探るには、レートチェックが入ったレベルを覚えておくことが重要。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 22 総合第 1351 号,経済産業省平成 22・12・22 商第 6 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第37条の6の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。